

## 「次世代育種」促進研究会中間報告(案)についての意見・情報の募集の結果について

平成 23 年 3 月 8 日  
独立行政法人森林総合研究所  
林木育種センター

「次世代育種」促進研究会中間報告(案)について、平成23年1月24日(月)から平成23年2月22日(火)にかけて、意見・情報の募集(パブリックコメント)を実施しました。

この結果、本件に対して以下のとおりご意見が寄せられましたので、ご意見の概要及びご意見に対する考え方についてお知らせします。

貴重なご意見をお寄せいただきました皆様方のご協力に深くお礼申し上げますとともに、今後とも林木育種の推進にご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 記

#### 1 意見・情報募集の実施方法

- (1)意見募集期間：平成23年1月24日(月)～平成23年2月22日(火)
- (2)林木育種センターのホームページに掲載
- (3)電子メール、郵送及びFAX

#### 2 意見募集の結果

意見提出数：3件

#### 3 ご意見の概要と回答

別紙のとおり

問い合わせ先  
独立行政法人森林総合研究所  
林木育種センター育種企画課  
電話：0294-39-7002

## 「次世代育種」促進研究会中間報告に関するパブリックコメントの結果と対応

No.	該当頁等	意見の概要	意見に対する考え方
1	I－3(育種期間の短縮化)P6	スギに勝る性質を有する外材が市場を席巻している中、なぜ、今更スギを将来のための造林樹種とするのか。スラッシュマツやデーダマツなど北米産の抵抗性の高いマツの中から「エリートツリー」を選抜すべき。	我が国の気候に適し、数十年間に亘る育種実績やデータが十分にあるスギ、ヒノキの次世代化を進めて参ることとしております。一方、スラッシュマツやデーダマツ等については十分なデータがないことから、今後データ収集等に努めて参ります。
2	I－3(育種期間の短縮化)P6	スギを将来の造林木としていくのであれば、材質が不安定な未成熟材の比率が小さく、安定した材質の成熟材部分の比率が高くなるように立木は育てるべきで、成熟材部分の割合を出来る限り増やすための品種選抜や施業方法を開発すべき。今後選抜すべき品種は、初期成長はあまり良くないが、高齢になっても成長が落ちず、いつまでも年輪幅を揃えることが可能であるべき。	成長と成熟材との関係、エリートツリーの伐期等については重要と認識しており、今後設置する技術戦略委員会等において検討して参ります。
3	II－2(第2世代採種園・採穂園の早期造成)P8	採種園の整備について、都道府県をまたがる広域連携については、不公平感があり、今の段階では現実的に無理だと思う。都道府県で行っている育種事業を終了し、種苗センターを設立した方が良い。	林業生産活動が停滞し、種苗供給体制が弱体化する中で、次世代種苗の早期普及とそのための種苗供給体制の確立が求められております。このような中で、都道府県により林木育種に対する取組に温度差があることから、広域連携を含めた体制づくりが必要とされたところ。今後設置する高速育種運営会議等において、どのような広域連携ができるのかなどについて検討して参ります。
4	III－1(第2世代精英樹普及の必要性)P11	早期普及のためには、これまでの都道府県を通じた普及と併せ、森林総合研究所林木育種センターから民間事業者等への直接的な供給体制の構築も必要。直接的に森林総合研究所林木育種センターから民間事業者等への育種種苗のPRの場を積極的に設けるべき。	エリートツリーの普及方策につきましては、今後設置する高速育種運営会議等で検討して参ります。
5	III－1(第2世代精英樹普及の必要性)P11	2世代品種の普及を図るために、性能表示(例えばA,AA,AAAなど)の整備を望む。また、品種・技術開発について、育種センターがそのほとんどを担うのではなく、開発段階から都道府県が関わっていくよう、きちんと予算措置をした上での研究体制を整備願いたい。	エリートツリーの普及や地方公共団体の役割につきましては、今後設置する高速育種運営会議等で検討して参ります。
6	III－1(高速育種運営会議及び技術戦略委員会)P12	「～我が国においては、森林総合研究所林木育種センターと都道府県が連携・協力して精英樹選抜等を行ってきた経緯があることを踏まえ～」となっているが、民有林における精英樹候補木の調査やその所有者確認、精英樹候補木からの採穂に当たっての所有者同意の取得には、実質市町村担当部局の協力無くしては不可能であると認識しており、市町村の関与を表記するため、「～森林総合研究所林木育種センターと都道府県等が連携・協力して精英樹選抜等を行ってきた経緯があることを踏まえ～」に訂正していただきたい。	地方公共団体の役割につきましては、今後設置する高速育種運営会議等で検討して参ります。
7	(高速育種運営会議)P15	高速育種運営会議③メンバーに市町村を明記していただきたい。	地方公共団体の役割につきましては、今後設置する高速育種運営会議等で検討して参ります。
8	その他	高品質材生産から合板・パーティクルボードなどへ用途が多様化している中で、従来の育種の手法も変えていくべきであり、高速次世代育種の方向性に賛成。	ご意見を踏まえ、次世代育種の推進に努めて参ります。